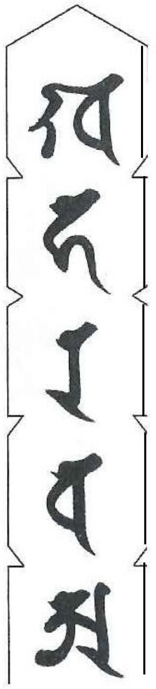
春季彼岸会塔婆供養のご案内

先祖代々の供養並びに水子供養



塔婆回向（とうばえこう）のお勧め

法要日時	３月２６日(日) 午後１時より
会場	法得寺３階本堂にて

もうすぐ春のお彼岸ですね。「暑さ寒さも彼岸まで」「お墓参り」「ぼた餅」など彼岸を連想する言葉は、多くあります。

彼岸は仏教のことばで、煩悩に満ちた世界「此岸（しがん）」から悟りの世界、涅槃の世界「彼岸（ひがん）」に到たる、もしくは届くことを意味します。

彼岸のひは、お日さまのひに通じます。

日は太陽で、真東から真西に沈む太陽を拝む信仰があり、昔の人は太陽を敬い親しんで「お天道様」と言っていたように、特に、農耕に従事する人にとって欠かせないものだったようです。

今でも、一部の地域では、彼岸の間に「日迎え日送り」といって、朝は太陽の昇る東方に向かい、日中は南方へ、夕方は日の沈む西方へ行き、それぞれの方位のお寺や神社にお参りする行事があるようです。

日の沈む西方に極楽浄土を願いながら、日を拝む。ちょうど彼岸の時期は太陽が真東から真西に沈みます。此の世とご先祖様たちの浄土が一番近い所で供養することになります。日に願いを込めて、彼岸をお迎えください。

是非、お彼岸には、お寺やお墓をお参りして、ご先祖を敬い御塔婆を建立し、共に功徳を頂きましょう。

光恵山　法 得 寺

広島市西区庚午南 1-2-13
電話 082-271-0773　FAX 082-271-0692

《先祖供養の大切さ》

先祖供養はよく木に例えられます。

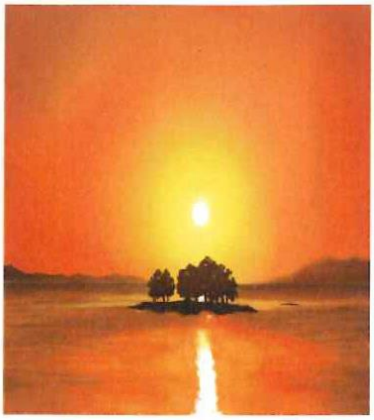
「枝葉栄えんと欲せば、先ずその根を養うべし」という言葉があります。

根がなくては木は立ちません。根が枯れてしまうと、幹も太らず、枝葉は茂らず、春が来て美しい花を咲かせることはできません。

根は先祖であり、幹は両親、そして枝葉は、子孫です。父母・祖先を敬い供養することは、その形見であるわが身を大切にすることであり、子孫へ受け継がれるものになります。

「身を立てて家を興す人、必ず先亡の供養怠る者なし」

特に、この彼岸の一週間は、ご先祖様に手を合わせ、皆様の心を清める修行期間と考えてください。



《六波羅蜜(ろくはらみつ)》

彼岸にはどのようなことをすればいいの？

彼岸は浄土思想から発したもので、苦渋に満ちたこの世から極楽浄土である彼岸へ渡るために努力する期間です。

仏教では、煩悩を断って悟りを得る為の前提として六つの行いを勧めています。

一、**布施**(ふせ)・・・思いやりのある温かい心を持って物惜しみせず、人や社会につくす。

一、**持戒**(じかい)・・・人としての戒律や規律を守る

一、**忍辱**(にんにく)・・・様々な哀しみや苦難を耐え忍び、乗り越えていくよう努める。

一、**精進**(しょうじん)・・・何事にも努力を以て励む

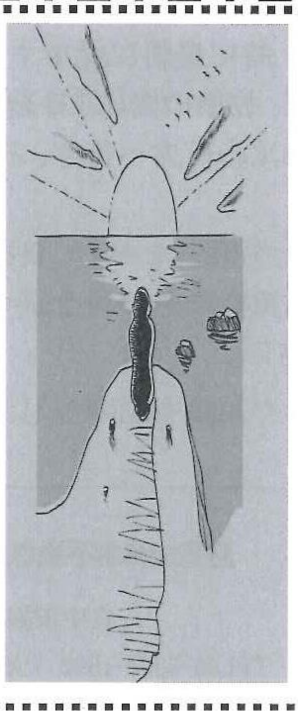
一、**禅定**(ぜんじょう)・・・心を静かに保つ

一、**智慧**(ちえ)・・・物事をよく考え、ありのままの真実に気づく。

特に、この彼岸の一週間は、先祖供養と共に、皆様の心の修行期間といえます。

《自利(じり)と利他(りた)》

「物というものは、自分のところにある間は、自分の物ではない。財宝でも知識でも、あらゆるものは、他に施すに随って初めて自分のものとなる」という言葉があります。



自分の中にあるだけで、そこから少しも外に発展せず、人の役にも立たないような物や知識に、何の意味があるでしょうか。

物や知識は外に役立ててこそ、社会的に有用となり、自分にも返ってくるものです。どうか、利他の心を日々の生活の中で実践して、「心のやすらぎ」を得てください。